

## 「被災者支援コーディネート事業」の成果について（平成26年度）

被災者支援コーディネート事業については、平成27年1月から3カ月間、パイロット事業として事業効果を検証する観点から実施しましたが、短期間ながら、多くの案件（54件）でコーディネートを実施し、支援を完了した案件も一定数（企業CSRマッチング11件等）あるなど、各地域の被災者支援の充実に寄与したところです。

平成27年度も継続実施することにより、潜在ニーズへの対応を含め、より多くの案件対応が可能となり、さらに事業効果が期待されることが確認されました。

### 1. 支援体制の整備

26年度には、ニーズの把握等を行った上で、復興支援員の導入のコーディネートや、新たな支援体制構築のための協議会設置の提案、連携パートナーの紹介等を実施。

コーディネートの潜在的なニーズは強く、27年度にも更に事業効果が上がることを確認。

#### 【26年度コーディネート案件数 25件】

① 福島県川内村	復興支援員の導入によるコミュニティづくり支援等のための体制整備を支援
② 福島県	福島県の相談員の大幅拡充に係る人材確保業務の支援
③ 岩手県野田村	コミュニティづくりや買い物支援等のための復興支援員の導入の提案・サポートによる被災者支援の体制整備

など

### 2. 企業CSR活動と自治体ニーズのマッチング

26年度には、経団連の協力による企業説明会の開催等、企業・地域双方の意向・ニーズ確認を行い、相当数の案件の調整に着手し、一部事例で最終的なマッチングに至ったところ。

27年度には、26年度からの継続案件の具体的調整を進めるとともに、潜在ニーズを発掘していくことにより、マッチング成果を上げられることを確認。

#### 【26年度コーディネート案件数 11件】

① ソフトバンクモバイル株式会社	同社製品「フォトビジョンTV」を無償貸与。現地では、写真展や展示会等の実施、町歩き用のコンテンツ作成、小学校等での地域学習資料としての活用を進める
② 株式会社USEN	災害公営住宅の集会所等に音楽を流すことのできる音楽放送サービスを無償貸与することでコミュニティ形成を支援
③ 小売会社、他1社	被災地で活動する支援団体にノートパソコンを寄贈することで業務を支援

など

### 3. 「心の復興」事業（生きがいつくり支援事業）の実施に向けた調整

26年度には、各地域の関連する取組を把握し、協力可能な団体とのつなぎなど、「心の復興」事業の申請に向けたサポートを実施。

27年度には、継続案件のフォローアップとともに、潜在ニーズの把握に努め、国の他の支援施策の活用を含め、効果的な取組を支援し、更に事業効果が上がることを確認。

#### 【26年度コーディネート案件数 18件】

① 福島県大熊町	ふるさとスタディーツアーの実施による町民の帰還支援の取組を支援
② 福島県浪江町	大学生の仮設住宅への居住と世代間交流による仮設住宅の住民の心のケアの事業立ち上げを支援
③ 岩手県釜石市・大槌町	仮設住宅の住民と学生の学びを通じた交流支援の事業立ち上げ支援（釜石・大槌大学プロジェクト）

など

（本件照会先）

復興庁 被災者支援班

参事官：牛島

担当：諏訪、北中、後藤

TEL 03-5545-7481

# 被災者支援コーディネート事業（平成26年度分）の成果

## 1. 支援体制の整備

1. 今後の事業実施効果について	
<p>○26年度には、ヒアリング活動を通じて、現地ニーズの把握、課題整理を行った上で、自治体等に対し、復興支援員の導入のコーディネート、新たな支援体制構築のための協議会設置の提案や、連携パートナーの紹介のほか、支援体制の構築に係る関連手続のサポート等を行ってきたところ。</p> <p>○このような活動を通じて、被災者支援体制の整備でコーディネートの潜在的なニーズは強く、27年度に実施することにより、更に事業効果が上がることを確認。</p>	
2. 26年度のコーディネート案件 25件	
①	<p>【福島県川内村 復興支援員の導入支援】</p> <p>コーディネート事業により、村での体制整備のニーズを把握し、「コミュニティ支援・地方創生・産業対策」を担当する復興支援員の導入について、他自治体での導入例の情報提供等を通じ、円滑な導入手続を支援し、機動的な支援体制の整備を可能としたところであり、今後、導入に向け調整中。</p>
②	<p>【福島県 見守り体制構築支援】</p> <p>福島県での27年度からの相談員体制の大幅拡充に関し、現場の相談員を指揮統括する主任相談員の募集・採用について、コーディネート事業を通じて、「WORK FOR 東北」事務局との連携体制を活かして支援を実施。引き続き、必要なフォローを実施。</p>
③	<p>【岩手県野田村 復興支援員の導入支援】</p> <p>従来、野田村において、被災者のコミュニティづくり、買い物・外出支援事業を実施してきた民間事業者との契約が26年度末で満了。</p> <p>コーディネート事業により、体制整備のニーズを把握し、復興支援員導入を提案するとともに、必要な技術的サポートを行い、新たに導入した復興支援員によって、事業の継続実施を可能とした。</p>
④	<p>【岩手県岩泉町 地域コミュニティ支援員の実施】</p> <p>コーディネート事業により、町から相談を受け、地域づくり・被災者見守りなどの分野での体制整備のため、復興支援員の導入を提案するとともに、関連の手続や、WORK FOR 東北を活用した人材確保をサポートし、円滑に新体制を構築することを可能とした。</p>
⑤	<p>【福島県 県北地区支援者連絡会の設置】</p> <p>コーディネート事業により、県北地区をモデルとして、避難元・避難先双方の支援者の連携強化に向け、自治体、県社協、市町社協、復興支援員、コミュニティ交流員、心のケアセンターによる支援者連絡会を設置。</p> <p>今後、避難元・避難先の自治体による共同イベントの企画等を通じ、住民同士の融合を進めるとともに、より広域的な展開についても検討。</p>

上記のほか、福島県内で7件、宮城県内で4件、岩手県内で9件の案件について、コーディネートを実施。

## 2. CSRマッチング

1. 今後の事業実施効果について	
<p>○ 26年度には、経団連の協力を得て、東京及び被災地での下記の取組により、企業・地域双方の意向・ニーズ確認を行い、相当数の案件の調整に着手し、一部事例で最終的なマッチングに至ったところ。</p> <p>①東京で、企業説明会を2回実施</p> <p>②被災地での支援者研修会の機会を活用し、地域側のニーズ把握の場を設定</p> <p>③コーディネーターが、上記を通じて把握した、関心を持つ企業・自治体等に対して、きめ細かく意向確認・提案を実施。</p> <p>○ 27年度には、東京と被災地の双方で、26年度に把握した「企業提案」と「地域ニーズ」を踏まえ、企業及び被災地との間の具体的な調整を進めるとともに、潜在ニーズの発掘に引き続き取り組むことを通じて、企業CSR活動の効果的な実施を支援していくことで、マッチング成果を上げられることを確認。</p>	
2. 26年度のコーディネート案件 11件	
①	<p>【ソフトバンクモバイル株式会社 フォトビジョンTVの無償貸与】</p> <p>コーディネート事業を通じて、同社の製品である「フォトビジョンTV」の無償貸与の意向を確認。被災地との調整の結果、釜石市への2年間無償貸与（30台）が決定。同市の復興支援員（「釜援隊」）を通じ、写真展や展示会等の実施、町歩き用のコンテンツ作成、小学校等での地域学習資料としての活用を進める。</p>
②	<p>【株式会社USEN 音楽放送サービスの無償貸与】</p> <p>コーディネート事業を通じて、同社より、音楽放送サービス設備について、災害公営住宅でのコミュニティ形成に資するため、無償貸与の意向を確認。調整の結果、住田町、NPO法人カリタス釜石とのマッチングが成立。（2件）</p>
③	<p>【国際援助団体 海外からの視察研修の実施】</p> <p>同団体より、海外からの災害復興の現場の視察研修について、コーディネート事業を通じた調整依頼があり、自治体における研修受け入れを実施。</p>
④	<p>【総合商社 社内マルシェによる物販販売】</p> <p>社内マルシェの実施にあたり、コーディネート事業を通じて、参加可能な被災自治体との調整依頼があり、自治体の参加協力をアレンジ。</p>
⑤	<p>【人材関連会社 ボランティア活動の写真提供】</p> <p>被災地でのボランティア活動時の写真について、復興関連の記録写真の取組を行う団体へ提供。</p>
⑥	<p>【医療関連メーカー 企業研修の実施】</p> <p>コーディネート事業を通じて、被災地における企業研修の実施の意向を確認。被災自治体施設において、同社研修を実施。ボランティア活動の実施も今後検討。</p>
⑦	<p>【通信会社 情報発信の支援】</p> <p>コーディネート事業を通じて、同社メディアを活用した情報発信の支援の意向を確認。自治体の事業PRを実施。</p>

【小売会社、他1社 ノートパソコン寄贈】

- ⑧ コーディネート事業を通じて、ノートパソコン寄贈による支援活動にサポートの意向を確認。調整の結果、各地の支援団体とのマッチングが成立。(3件)

上記のほか、約30件程度の案件について、企業及び自治体の意向を踏まえ、コーディネート業務に着手。

### 3. 「心の復興」事業（生きがいつくり支援事業）の実施に向けた調整

1. 今後の事業実施効果について	
<p>○26年度には、ヒアリング活動を通じて、各地域で、被災者の生きがいつくり支援の取組を把握し、取組に協力可能な団体とのつなぎを行うなど、複数の案件について、「心の復興」事業の申請に向けたサポートを実施したところ。</p> <p>○27年度には、心の復興事業で採択に結び付いた案件を引き続きフォローアップを行うとともに、各地域の潜在的な支援ニーズの把握に努め、国の他の支援施策の活用促進を含め、効果的な取組の支援を実施していくことにより、更に事業効果が上がることを確認。</p>	
2. 26年度のコーディネート案件 18件	
①	<p>【福島県大熊町 ふるさとスタディーツアーの実施】</p> <p>町において、避難者の町内スタディーツアーや、まちづくりのワークショップの実施を検討。コーディネート事業を通じて、ワークショップ等の企画や、開催に当たっての協力者の確保等を支援し、事業化の動きが進展。</p> <p>※「心の復興」事業一次採択案件</p>
②	<p>【福島県浪江町 仮設住宅の住民の心のケア（大学生の居住による支援）】</p> <p>町において、仮設住民の高齢化、引きこもり増加等の課題に対応するため、空き部屋に大学生が居住することを通じた仮設住宅の活性化策を検討。コーディネート事業を通じて、ニーズを把握した後、県や大学ボランティアセンターとの調整を支援し、事業化への動きが具体的に進展。</p> <p>※「心の復興」事業一次採択案件</p>
③	<p>【岩手県釜石市・大槌町 釜石・大槌大学プロジェクト】</p> <p>NPO 法人が、大学の模擬講座で、仮設住宅の住民と学生の学びを通じた交流や、住民に自らの経験を講座で語るることによる生きがいつくりを企画。コーディネート事業を通じて、県や釜石市、大学（学生ボランティア）との調整、他の協力団体とのつなぎをサポートし、事業の計画が進展。</p> <p>※「心の復興」事業一次採択案件</p>
④	<p>【福島県大熊町 休耕田を活用した避難者の家庭菜園づくり】</p> <p>町において、いわき市内の仮設住宅住民の心のケアの問題に対応するため、災害公営住宅建設地近郊で家庭菜園を活用した取組を予定。コーディネート事業を通じて、協働できる NPO をマッチングするとともに、事業企画を支援することにより、事業の具体化が進展。</p>
⑤	<p>【福島県浪江町 避難者自身によるコミュニティ拠点の整備】</p> <p>避難先での町民サロン活動の拠点整備のため、自治会が中心となり、サロンの開設運営を検討。コーディネート事業を通じて、事業設計や自治体との調整のサポートを行うことにより、事業の実施に向けた動きが進展。</p>
⑥	<p>【宮城県南三陸町 故郷の記憶を記録し、まちづくりの礎を作る事業】</p>

支援団体が、故郷の風景の中を住民自身が歩き、思い出や記憶を語りながら、学生の協力を得て記録に留めることで心の拠り所を確保する事業を計画。コーディネート事業を通じて、地元大学との調整や、事業内容の検討をサポートし、事業の計画が進展。

上記のほか、福島県内で3件、宮城県内で7件、岩手県内で2件の案件について、コーディネートを実施。